特集

「違いはお互いの宝」
ー多民族国家カナダに見る多文化共生ー

カナダ・サスカチュワン州サスカツーン市在住　　高谷　尚子

「北海道の皆さんこんにちは！」NHKが「北からの出発」の取材にみえて、マイクでそう呼びかけたのは今から26年前の1981年のことでした。この原稿を書くにあたって、その言葉、それからの日々が蘇りました。

190以上の人種が共存しているカナダ

日本の雛まつりを祝う（後列左端が筆者）

カナダでは1988年に「多文化保護推進政策」が制定され、それ以前から伝承言語学校の一つとしての日本語補習授業校の運営に携わっていましたが、1990年、サスカツーン市の難民移民補助機関“オープン・ドア・ソサエティ”に職を得て以来、本当に色々な国の、沢山の人々との交流と手助けに明け暮れてきました。ジョブタイトルはリエゾンワーカー、プログラムファシリテーター、ファミリーサポートワーカーとなっています。世界情勢の変化に伴い、新世界カナダにやってくる人々の国は、私のプログラムの過去16年の名簿を見ると、ベトナム、ラオス、カンボジア、インド、バングラデシュ、タイ、ミャンマー（カレン族を含む）、ネパール、チベット、パキスタン、マレーシア、フィリピン、日本、中国、韓国、台湾、トルコ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ、ルーマニア、ハンガリー、ポーランド、チェコ、マケドニア、ロシア、アフガニスタン、タジキスタン、キルギス、ウズベキスタン、ウクライナ、モンゴル、シリア、イラン、イラク、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、レバノン、エリトリア、エチオピア、エジプト、アルジェリア、モロッコ、リビア、スーダン、ガーナ、コンゴ、シエラレオネ、ウガンダ、スワジランド、ザンビア、モーリシャス、ナイジェリア、ギニア、リベリア、ソマリア、モザンビーク、ブルンジ、ルワンダ、ジンバブエ、ブルネイ、ブラジル、コロンビア、グアテマラ、エルサルバドル、ペルー、ニカラグア、チリ、ホンジュラス、ジャマイカ、ドミニカ等々。 皆の顔を思い浮かべながら羅列してあまりの多さに我ながら驚いていますが、カナダは190以上の人種が共存している国ですので、私の経験などまだ門前の小僧です。

友だちを招いてお誕生会

サスカチュワン州のシステム

母と乳児教室

私の住むサスカチェワン州は英語圏ですので、移民や難民としてやって来た人々は移民局で英語のテストを受け、まず英語教室出席から始まります。その間に私が個人面談をして補助的プログラムを提供するのです。私の担当している「親教室」の経費は主に国の保健局と移民局から出ています。

妊婦のための栄養料理教室、病院見学、母と乳児教室、乳幼児子育て教室、学齢期子女の親教室、女性サポート教室があり、全てコーファシリテーター制といって、カナダの機関の保健師、栄養士、ソーシャルワーカーとわが機関のワーカーの2人3脚で仕事をします。他に補助プログラムとして、ホストファミリーボランティア（ボランティアが友人として、英語や日常の暮らしを助ける）、ホームワークヘルプ（高校生の勉強を助ける）、会話サークル、教育委員会とタイアップしてリエゾンワーカーを学校に送り、生徒と先生と父兄を助けるシステム等もあります。難民若者のサッカーチームも出来ました。

開設から25年「オープン・ドア・ソサエティ」

25周年の「ホットケーキ朝食会」ではグッズも販売

「オープン・ドア・ソサエティ」は、1980年に2ー3人の有志で、当時のボートピープル（ベトナム難民）を助けるべく産声をあげました。いまではNPO法人として職員65名、ボランティア400余名の大所帯で、ディレクター、庶務一般、会計主任、空港に出迎えて最初の住居や生活必需事項、子供の学校手配などを手伝うセツルメント部門、英語教育部門、就職補助部門、ボランティア部門、ファミリープログラム部門、チャイルドケア部門と分かれています。看護師やソーシャルワーカーなどの研修生も絶え間なく出入りして、フル活動です。運営資金は国、州、市、援助団体など様々なところからでています。

2006年に1年遅れの創立25周年記念の行事を行いました。市役所前庭